



代表 高木 美恵子さん

園田 由美子さん

中山 美香子さん

西田 英代さん

宇城市 松尾 孝子さん

宇市 高島 満子さん

宇市 徳永 和代さん

電話でつなぐ

心と心——。

電話で届ける思いやり

「おはようございます。調子はどうですか。」顔が見えなくても笑顔と分かる明るい声で電話をするのは、もしもし電話訪問ボランティアの皆さん。高齢者の孤独死を防ぐために昭和63年に松橋町で設立。社会福祉協議会内の宇城市ボランティア連絡協議会にある9つのボランティアグループの一つだ。今では市内全域を対象に活動している。

現在メンバーは7人。主な活動は週1回、1人暮らしの高齢者へ2人1組で電話をかけての安否確認。「声を聴くと体調がなんとなく分かるので、相手の調子を確認しながら声掛けを行っています。」と語るのは、9年間活動を続ける中山さん。安否確認だけでなく、相手の体調や今日の天気、最近あったことなどの世間話も。電話を受ける山口志津子さんは「たわいのない話ですが、話し相手がいることはとてもうれしい。天気が悪い日は体の調子が良くないので、それを心配してくれてありがたいです。今週は誰がかけてきてくれるんだろうと毎週楽しみにしています。」と話す。電話をするメンバーが変わっても、同じように話ができるのはメンバー間で共有している活動記録のおかげ。細かいメモで情



話すときは電話越しでも自然と笑顔に

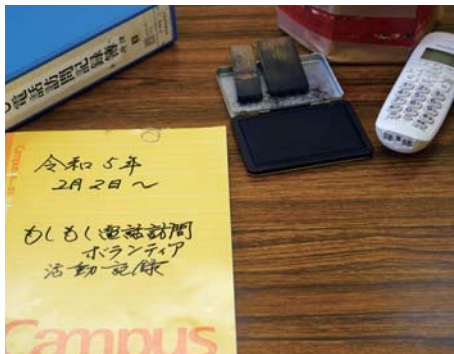
やりがいと大事なこと

「電話だけで顔を合わせたことはなくても、名前を覚えてくれたときはうれしいです。最初は『お元気ですか、お変わりないですか。』とこちらからの声掛けくらいだったのが、『久しぶり、元気になった。』と逆に聞いてもらえるようになり、今では

報を引き継ぎ、声を掛ける。お互いの意見や気付きを言い合うのが月1回の連絡会議。「あの人は最近特に異常はないみたい。」「あの人はこの前まで体調が良くなかったみたいだけど、最近は草むしりができるくらい体調が良いようだ。」と多くの声が飛び交う。電話相手を思いやり、本当に心配しているからこそその光景だ。



月に1回の会議は全員で集まり情報共有



活動の必需品。電話と活動記録書

もしもし電話訪問ボランティア

moshimoshi-denwa-homon-volunteer

昭和63年3月設立の社会福祉協議会のボランティア団体。現在7人で1人暮らしの高齢者へ週1回の安否確認の電話を行っている。メンバー募集中。

〒宇城市社会福祉協議会 地域福祉課
☎32-1055

今だからこそ気付くこと

「新型コロナウイルスのまん延で、多くの団体が対面でボランティア活動ができない状況の中、もしもし電話訪問の活動はできていました。人と接触する機会が減っていた状況だからこそ、電話で話す大切さを改めて感じました。」と代表の高木さん。

今日も鳴るもしもし電話訪問の思いのこもった電話が、誰かの心を温めていく。

宇輝人

vol.85